

富浦協働つうしん

12月9日(木)

新たな交流の場づくりに向けて

第四回「富浦の地域づくりを考える会」を開催

市役所会議室で11月16日～29日にかけて、富浦の地域づくりのグループ会議と第4回「富浦の地域づくりを考える会」が開かれました。ゆたかな地域づくりに向け、テーマごとのグループを作り、30代～70代の市民が延べ54名参加しました。

グループとしては、①交流の場づくり等の活動を行う仮称「ふれあい」、②環境美化等を行う仮称「かがやき」の二つを設定しました。また具体的な活動のテーマとしては「軽スポーツを広めよう」「コミュニティ・カフェをつくろう」等が提案されました。



地域づくり協議会設立準備委員会の委員長等を選任

参加者達は、今後の行動計画の概要を作成すると共に、「地域づくり協議会設立準備委員会」への移行を確認し、そのための委員長(栗林忠志氏)等を選任しました。次回は、12月中旬、行動計画を煮詰め、規約、予算等の策定を行います。多くの方々の参加をお待ちしております。

自分で一し
岬園ポ楽達
房公スを入
大然軽ツむ



地域づくり協議会設立準備委員会の役員

委員長 .. 栗林忠志氏
副委員長 .. 堀内久光氏
副委員長 .. 朝日昭氏



地域づくり協議会設立準備委員会の栗林委員長(右)とコミュニティ・カフェの提案を行った成田悦さん(左)

今後の行動計画等を発表する堀内さん



成田悦さんの話

コミュニティ・カフェ設置の目的は、市民の皆さんどうしの交流の場づくりです。多くの市民の皆さんの知恵と行動力を合わせ、富浦にコミュニティ・カフェを作りたいと思っています。

ここでたくさんの人達がお茶やコーヒーを飲みながら、話や打ち合わせ等を重ね、交流の輪が広がっていくことを期待しています。

行動の概要

①コミュニティ・カフェをつくろう

- 1 先進地区の視察
- 2 場所の選定
- 3 営業内容の確認
- 4 管理者等の確保
- 5 営業時間の確認
- 6 許認可の確認

② 軽スポーツを広めよう

- 1 指導者の確保
- 2 子供達と共に体験
- 3 環境美化と併わせた体験
- 4 イベントと併わせた体験

富浦の現状

農業、漁業従事者の減少

近年、富浦の農業・漁業従事者は、図1の通り年々減少を続けています。今後、農業・漁業従事者数が大幅に増加し、富浦の発展に寄与していくとは予測しがたいう状況です。

富浦の課題と今後の対応を皆んなで一緒に考えてみませんか。

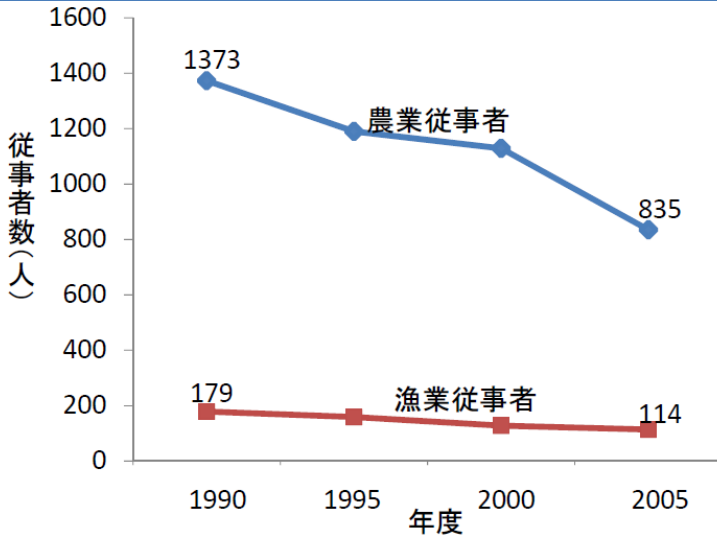


図1 富浦町農業、漁業従事者の推移

行事予定

- 12月10日（金） 9時40分、幼稚園生のお楽しみ会（歌、劇、踊り等）（富浦幼稚園にて）
- 12月12日（日） 9時、餅つき大会（富浦地区子供会青少年相談員共催、富浦中学校にて）
- 1月20日（木） 午後、小学生の縄跳び大会（富浦小学校体育館にて）

金メダリストとの交流の場 柔道の指導を受ける中学生

オリンピック金メダリスト、谷本歩実選手の講演と実技指導を受ける富浦の中学生。今後、富浦からオリンピック選手が出てくるかも知れませんね。



大外刈りを指導する谷本歩実選手。生徒は、柔道部に所属しており、見事な受け身を見せてくれました。



富浦の昔ばなし “ゴンドダ餅”

美味しい「ゴンドダ餅」を近所にふるまう

昔むかし、ある村に権太という働き者のお爺さんがおりました。

ある日、お婆さんにつって貰ったオムスビを持って山へ仕事に行ったのですが、そのとき山の上から、オムスビの入った風呂敷包みを落としてしまいました。家が貧乏なため上等な米でなく、屑米で作ったまずいオムスビでしたが、お爺さんにとっては大事な弁当です。急いで拾い上げようとしたのですが、オムスビは解けた風呂敷から転がり出て、ずつと下の方にあつた穴に入ってしまった。

お爺さんがその穴に入りますと、そこは野鼠の隠れ穴でした。お爺さんが見えていますとたくさんの鼠が転がり込んだオムスビで餅を搗き、「おいしい、おいしい、これで猫がいなけりや極楽だ。」と歌いながら餅を食べ出しましたのです。お爺さんもその餅を食べたくなりましたので、「ニヤオン」と猫の声を出して鼠を追い払い、食べますと、たいへんおいしい味がしたのです。稗の屑米がおいしい餅になることを知ったお爺さんは、家に帰りますとさっそく餅を搗いてお婆さんや近所の人たちに食べさせました。昔、農家が屑米で作った「ゴンドダ餅」の始まりの話です。

著者 生稲謹爾氏



「日本語スピーチコンテスト」特別受賞

富浦地区のALT

Kim Hendersenさん

国際交流協会主催
発表会にて「じろじろ見られる」を熱弁

